



TITLE:

兵庫医科大学泌尿器科学教室における1985年の臨床統計

AUTHOR(S):

生駒, 文彦; 森, 義則; 有馬, 正明; 島田, 憲次; 島, 博基;
寺川, 知良; 井原, 英有; ... 岡本, 英一; 土井, 裕; 宮本,
賀

CITATION:

生駒, 文彦 ...[et al]. 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1985年の臨床統計. 泌尿器科紀要 1987, 33(11): 1840-1845

ISSUE DATE:

1987-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119344>

RIGHT:

兵庫医科大学泌尿器科学教室における1985年の臨床統計

兵庫医科大学泌尿器科学教室（主任：生駒文彦教授）

生駒 文彦・森 義則・有馬 正明・島田 憲次
 島 博基・寺川 知良・井原 英有・鹿子木基二
 藪元 秀典・藤末 健・辻本 幸夫・細川 尚三
 荻野 敏弘・川口 理作・田口 恵造・松井 孝之
 藤末 洋・土井 康裕・竹村 俊哉・岡本 英一
 土井 裕・宮本 賀

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS,
INPATIENTS AND OPERATIONS IN 1985

Fumihiko IKOMA, Yoshinori MORI, Masaaki ARIMA, Kenji SHIMADA,
 Hiroki SHIMA, Tomoyoshi TERAOKA, Hideaki IHARA, Mototsugu KANOKOGI,
 Hidenori YABUMOTO, Ken FUJISUE, Sachio TSUJIMOTO, Shozo HOSOKAWA,
 Toshihiro OGINO, Risaku KAWAGUCHI, Keizo TAGUCHI, Takayuki MATSUI,
 Hiroshi FUJISUE, Yasuhiro DOI, Toshiya TAKEMURA,
 Eiichi OKAMOTO, Yutaka DOI and Iwai MIYAMOTO

*From the Department of Urology, Hyogo College of Medicine
 (Director: Prof. F. Ikoma)*

Statistical studies were made on 1,795 outpatients, 528 inpatients and 518 operative procedures at our department in 1985. The most frequent diseases among the outpatients were urogenital infections followed by anomalies, stones and tumors. The major diseases among the inpatients were hypospadias, vesicoureteral reflux, congenital urethral stenosis, bladder tumor and benign prostatic hypertrophy. A total of 518 operations were performed. The five major operations were optic internal urethrotomy, hypospadias repair, ureterocystostomy, and transurethral resection of prostate and of bladder tumors.

Key words: Clinical statistics, Urology

緒 言

1973年兵庫医科大学開設以来、当教室では一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科を主題のひとつとして臨床診療および研究を続けている。1982年、1983年および1984年の臨床統計¹⁻³⁾にひきつづき、1985年の外来患者、入院患者および手術について臨床統計を行ったので報告する。

外来患者統計

1985年の外来新患者数は1,795名で、男子1,180名、女子615名であり、男女比は1.9:1であった。年

齢分布はTable 1に示すごとく、14歳以下の小児患者は445名と24.8%を占めた。疾患別では感染症479名(26.7%)、先天性異常296名(16.4%)、結石198名(11.0%)、腫瘍195名(10.9%)、外傷15名(0.8%)の順に多く、その他の疾患は612名(34.1%)であった。尿路性器感染症(Table 2)では膀胱炎、前立腺炎、尿道炎、腎盂腎炎、亀頭包皮炎症、副睾丸炎の順に多かった。尿路性器結核の新患患者はなかった。尿路性器先天性異常(Table 3)ではVUR、尿道下裂、包茎、停留辜丸の順に多かった。尿路結石(Table 4)では尿管結石がもっとも多く、ついで腎結石であり、上部尿路結石が89.8%を占めた。尿路性器腫瘍(Ta-

Table 1. 外来患者（新患）年齢分布.

年齢(歳)	男	女	計
0～4	184	48	232
5～9	90	41	131
10～14	61	21	82
15～19	28	22	50
20～29	105	67	172
30～39	159	97	256
40～49	128	69	197
50～59	168	114	282
60～69	111	81	192
70～79	108	46	154
80～89	36	9	45
90～99	2	0	2
計	1180	615	1795

Table 2. 尿路性器感染症（外来）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎盂腎炎	7	6	6	22	41
膀胱炎	4	12	27	191	234
尿道炎	2	59	0	0	61
前立腺炎	0	82	0	0	82
亀頭包皮皮炎	20	12	0	0	32
副睾丸炎	1	24	0	0	25
辜丸炎	1	0	0	0	1
外陰部ヘルペス	0	1	0	1	2
包皮リンパ管炎	0	1	0	0	1
計	35	197	31	214	479

Table 3. 尿路性器先天性異常（外来）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
低形成腎	1	0	1	0	2
囊胞腎	0	3	1	1	5
多囊腎	0	0	1	0	1
腎動静脈奇形	0	1	0	0	1
VUR	28	1	23	4	56
尿管瘤	1	0	3	0	4
異所開口尿管	1	0	2	0	3
腎盂尿管移行部狭窄	11	0	5	3	19
尿管膀胱移行部狭窄	2	0	1	1	4
後部尿道弁	3	1	0	0	4
前部尿道憩室	0	1	0	0	1
重複尿道	0	1	0	0	1
巨大尿道	1	0	0	0	1
直腸尿道瘻	0	1	0	0	1
尿道リング狭窄	11	6	0	0	17
遠位部尿道狭窄	0	0	4	10	14
停留辜丸	45	3	0	0	48
包茎	41	11	0	0	52
尿道下裂	53	2	0	0	55
精管開口異常	1	0	0	0	1
女性半陰陽	0	0	1	0	1
陰唇癒合	0	0	4	1	5
計	199	31	46	20	296

Table 4. 尿路結石（外来）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎結石	1	40	1	13	55
腎尿管結石	0	12	0	4	16
尿管結石	1	76	0	26	103
膀胱結石	0	7	0	2	9
尿道結石	0	2	0	0	2
前立腺結石	0	13	0	0	13
計	2	150	1	45	198

Table 5. 尿路性器腫瘍（外来）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
副腎腫瘍	0	0	0	1	1
腎腫瘍	0	4	0	3	7
腎盂腫瘍	0	2	0	0	2
尿管腫瘍	0	3	0	1	4
膀胱腫瘍	0	21	0	8	29
膀胱後部腫瘍	0	1	0	0	1
前立腺癌	0	16	0	0	16
前立腺肥大症	0	114	0	0	114
陰茎癌	0	3	0	0	3
尖圭コンジローム	0	2	0	0	2
辜丸腫瘍	0	3	0	0	3
傍辜丸横紋筋肉種	0	1	0	0	1
精索腫瘍	0	1	0	0	1
尿道カルンケル	0	0	0	8	8
尿道ポリープ	0	0	0	1	1
外陰部ベージェット氏病	0	0	0	2	2
計	0	171	0	24	195

Table 6. 尿路性器外傷（外来）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎外傷	0	1	0	0	1
尿管外傷	0	0	0	1	1
尿道外傷	0	8	0	0	8
辜丸外傷	1	0	0	0	1
陰茎外傷	1	2	0	0	3
陰茎折症	0	1	0	0	1
計	2	12	0	1	15

ble 5) では前立腺肥大症, 膀胱腫瘍, 前立腺癌, 尿道カルンケル, 腎腫瘍の順に多かった. 尿路性器外傷 (Table 6) は昨年と同様に少なく 15 名のみであった. そのほかの疾患 (Table 7) では, 神経因性膀胱, 原因不明の血尿, 夜尿症, 慢性腎不全などが多い疾患であった.

入院患者統計

入院患者数は 528 名であり, 再入院をふくめた延べ入院患者数では 581 名であった. 性別では男子 400 名,

Table 7. そのほかの疾患 (外来).

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
夜尿症	35	0	13	2	50
神経因性膀胱	2	41	7	32	82
神経性頻尿	0	2	1	3	6
腹圧性尿失禁	0	0	0	5	5
特発性腎出血	1	10	0	5	16
原因不明の血尿	8	18	3	28	57
糸球体腎炎	2	7	2	10	21
蛋白尿	0	0	1	3	4
乳糜尿	0	2	0	0	2
遊走腎	1	0	0	13	14
腎性高血圧	0	0	0	1	1
腎嚢胞	1	8	0	9	18
男性不妊	0	24	0	0	24
インポテンツ	0	10	0	0	10
血精液症	0	5	0	0	5
陰嚢水腫	19	7	0	0	26
精液瘤	0	2	0	0	2
精索静脈瘤	4	6	0	0	10
睾丸回転症	2	1	0	0	3
思春期早発症	1	0	0	0	1
睾丸機能不全	2	1	0	0	3
膀胱頸部狭窄	0	40	0	0	40
尿道狭窄	0	17	0	0	17
尿管狭窄	0	6	0	10	16
膀胱憩室	1	1	0	5	7
尿道脱	0	0	0	2	2
膀胱内異物	0	0	0	1	1
膀胱陰癭	0	0	0	1	1
膀胱会陰瘻	0	1	0	0	1
慢性腎不全	3	25	1	21	50
泌尿器科的正常	15	50	2	50	115
計	97	284	30	201	612

Table 8. 入院患者年齢分布.

年齢(歳)	男	女	計
0~4	101	23	124
5~9	71	21	93
10~14	21	13	34
15~19	9	2	11
20~29	16	3	19
30~39	25	12	37
40~49	14	17	31
50~59	41	15	56
60~69	40	12	52
70~79	49	7	56
80~89	12	3	15
90~99	1	0	1
計	400	128	528

女子128名と男女比は3.1:1であり、外来患者におけるより男女比は高かった (Table 8). 年齢別では14歳以下の小児患者が251名と約半数をしめた.

以下は各疾患を臓器別にわけ、表に示すが、入院患者については複数の病名をもつものはそのおの

Table 9. 腎疾患 (入院).

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎細胞癌	0	5	0	3	8
腎血管筋脂肪腫	0	0	0	1	1
転移性腎腫瘍	0	0	0	1	1
ウィルムス腫瘍	1	0	0	0	1
腎盂腫瘍	0	2	0	0	2
腎結石	3	19	0	12	34
腎嚢胞	1	2	0	0	3
急性腎盂腎炎	2	1	2	1	6
腎周囲膿瘍	1	0	0	0	1
腎出血	1	0	0	3	4
腎盂尿管移行部狭窄	7	0	2	0	9
嚢胞腎	0	0	0	1	1
多嚢腎	0	0	1	0	1
腎性高血圧	0	1	0	1	2
腎動静脈奇形	0	1	0	0	1
慢性腎不全	4	10	3	13	30
腎提供者	0	3	0	3	6
計	20	44	8	39	111

Table 10. 尿管疾患 (入院).

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管腫瘍	0	3	0	1	4
尿管結石	0	8	0	3	11
尿管狭窄	0	2	0	4	6
VUR	36	0	25	4	65
尿管瘤	1	0	6	0	7
異所開口尿管	2	0	2	0	4
巨大尿管	2	0	2	0	4
計	41	13	35	12	101

Table 11. 膀胱疾患 (入院).

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膀胱腫瘍	0	31	0	12	43
膀胱結石	0	2	0	0	2
膀胱憩室	3	1	0	0	4
神経因性膀胱	1	1	5	1	8
膀胱頸部狭窄	0	11	0	0	11
膀胱陰癭	0	0	0	3	3
重複膀胱	0	0	1	0	1
計	4	46	6	16	72

を数えたので延べ疾病名数となる.

1. 腎疾患 (Table 9)

腎結石34名 (30.6%), 慢性腎不全30名 (27.0%), 腎盂尿管移行部狭窄9名 (8.1%), 腎細胞癌8名 (7.2%) が多かった. 転移性腎腫瘍の1名は食道癌が原発であった. ウィルムス腫瘍の1名は術後の化学療法のため再入院した患者である.

2. 尿管疾患 (Table 10)

Table 12. 尿道疾患（入院）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿道リング狭窄	30	18	0	0	48
遠位部尿道狭窄	0	0	17	2	19
後部尿道弁	10	1	0	0	11
前部尿道弁	1	0	0	0	1
後天性尿道狭窄	5	11	0	0	16
尿道外傷	0	3	0	0	3
尿道脱	0	0	0	1	1
尿道ポリープ	1	0	0	0	1
尿道腔瘻	0	0	2	0	2
計	47	33	19	3	102

Table 13. 前立腺疾患（入院）.

疾患名	男		計
	小児	成人	
前立腺肥大症	0	35	35
前立腺癌	0	17	17
前立腺横紋筋肉腫	1	0	1
前立腺結石	0	2	2
前立腺炎	0	2	2
計	1	56	57

Table 14. 陰茎・陰囊疾患（入院）.

疾患名	男		計
	小児	成人	
尿道下裂	61	2	63
尿道上裂	1	0	1
完全包茎	5	0	5
陰茎癌	0	2	2
陰茎折症	0	1	1
陰茎前位陰囊	2	1	3
睾丸腫瘍	1	5	6
傍睾丸腫瘍	0	1	1
停留睾丸	29	0	29
睾丸機能不全	2	0	2
陰囊水腫	5	4	9
精索静脈瘤	2	2	4
睾丸回転症	2	0	2
副睾丸炎	0	3	3
精液瘤	0	2	2
睾丸外傷	1	0	1
精管異所開口	1	0	1
計	112	23	135

VUR が65名（64.4%）と尿管疾患の過半数をしめ、つぎが尿管結石11名（10.9%）であった。比較的まれとされる尿管瘤を7例、異所開口尿管を4例経験した。

3. 膀胱疾患（Table 11）

膀胱腫瘍43名（59.7%）、膀胱頸部狭窄11名（15.3%）、神経因性膀胱8名（11.1%）が多かった。重複膀胱の1例は以前に手術したもので今回は再入院であ

Table 15. そのほかの疾患（入院）.

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
二次性副甲状腺機能亢進症	0	2	0	3	5
副腎腫瘍	0	1	0	1	2
思春期早発症	1	0	0	0	1
混合性性腺不全症	1	0	0	0	1
鎖肛術後	5	0	0	0	5
ブルンベリー症候群	2	0	0	0	2
外陰部腫瘍	0	0	1	0	1
単径ヘルニヤ	1	0	0	0	1
重複直腸	1	0	0	0	1
スキーン氏腺腫瘍	0	0	0	1	1
男性不妊	0	1	0	0	1
計	11	4	1	5	21

Table 16. 腎の手術.

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎切石術	0	0	0	2	2
経皮的腎切石術(PNL)	0	10	0	9	19
腎瘻術	0	0	0	1	1
腎盂切石術	1	6	0	0	7
腎部分切除術	1	0	0	0	1
腎摘除術	2	5	2	5	14
半腎摘除術	0	0	1	0	1
腎尿管摘除術	1	5	0	1	7
腎盂形成術	6	0	2	0	8
開放性腎生検	0	1	0	0	1
自家腎移植術	0	0	0	1	1
腎移植術	0	5	1	10	16
提供腎摘除術	0	3	0	3	6
計	11	35	6	32	84

る。

4. 尿道疾患（Table 12）

男子の先天性球部尿道リング状狭窄48名（47.1%）、女子の遠位部尿道狭窄19名（18.6%）、後天性尿道狭窄16名（15.7%）、後部尿道弁11名（10.8%）が多かった。小児泌尿器科において、尿道リング狭窄、遠位部尿道狭窄および後部尿道弁は重要な下部尿路通過障害である。

5. 前立腺疾患（Table 13）

前立腺肥大症が35名（61.4%）と最も多かったが、前立腺癌も14例経験した。前立腺横紋筋肉腫の1例は昨年手術を施行した症例であるが、再発をみとめたため再入院の上化学療法を施行したが不幸な転帰をとった。

6. 陰茎・陰囊疾患（Table 14）

尿道下裂63名（46.7%）、停留睾丸29名（21.5%）、陰囊水腫9名（6.7%）が多かった。傍睾丸腫瘍の1例は横紋筋肉腫であった。精管異所開口の1例は両側

Table 17. 尿管の手術.

術 名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管切石術	0	6	0	0	6
尿管皮膚瘻術	0	3	0	3	6
尿管膀胱新吻合術	22	1	17	5	45
尿管尿管吻合術	0	1	0	2	3
尿管瘤摘除術	1	0	3	0	4
TUR-尿管瘤	0	0	1	0	1
リング尿管皮膚瘻術	2	0	0	0	2
リング尿管皮膚瘻閉鎖術	1	0	0	0	1
回腸導管造設術	0	4	0	5	9
尿管鏡	0	2	0	2	4
計	26	17	21	17	81

Table 18. 膀胱の手術.

術 名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
TUR-b.t.	0	23	0	7	30
TU-biopsy	0	5	0	1	6
TUR-b.n.	0	12	0	0	12
膀胱全摘除術	0	6	0	1	7
膀胱碎石術	0	2	0	0	2
膀胱憩室摘除術	3	1	0	0	4
膀胱腔瘻閉鎖術	0	0	1	1	2
膀胱会陰瘻閉鎖術	0	1	0	0	1
計	3	50	1	10	64

Table 19. 尿道の手術.

術 名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
外尿道口形成術	0	0	17	2	19
直視下内尿道切開術	38	35	0	0	73
内尿道切開術	6	1	0	0	7
TUR-Valve	13	2	0	0	15
TUR-尿道ポリープ	1	0	0	0	1
尿道脱摘除術	0	0	0	1	1
尿道形成術	1	1	0	0	2
尿道腔瘻閉鎖術	0	0	2	0	2
尿道テフロン注入術	1	0	0	0	1
計	60	39	19	3	121

精管が尿管に開口しており persisting mesonephric duct とみられる極めて稀な先天性異常である。

7 そのほかの疾患 (Table 15)

二次性副甲状腺機能亢進症の5例は慢性腎不全のため血液透析中の患者で、副甲状腺全摘除術のため入院した。鎖肛術後の5例は鎖肛に合併した泌尿器疾患の診断、治療のため紹介され入院した患者である。副腎腫瘍の2例は各々クッシング症候群および原発性アルドステロン症の患者である。重複直腸の1例は会陰部の腫瘍としてみつかった。

Table 20. 前立腺の手術.

術 名	男		計
	小児	成人	
TUR-P	0	35	35
恥骨後前立腺摘除術	0	1	1
計	0	36	36

Table 21. 陰囊・陰囊内容の手術.

術 名	男		計
	小児	成人	
陰囊水瘤摘除術	4	3	7
精索静脈高位結紮術	1	1	2
除睾術(一側)	4	3	7
除睾術(両側)	0	4	4
睾丸固定術	24	0	24
睾丸回転症整復術	2	0	2
精液瘤摘除術	0	2	2
睾丸自家移植術	1	0	1
副睾丸精管吻合術	0	1	1
陰囊内腫瘍摘除術	0	1	1
偽睾丸挿入術	1	1	2
陰囊形成術	2	1	3
計	39	17	56

手術統計

1985年に施行された手術回数は延べ518回であり、このなかには手術場でおこなった小児内視鏡検査や外来でおこなった小手術は含まれていない。518回のうち245回(47.3%)は小児患者に対する手術であった。直視下内尿道切開73回、尿道下裂修正手術54回、尿管膀胱新吻合術45回、TUR-P 35回、TUR-Bt 30回がおもな手術であった。

以下、臓器別に手術名を示す

1. 腎の手術 (Table 16)

今年から経皮的腎碎石術 (percutaneous nephro-lithotripsy, PNL) がはじめられ、19回と腎の手術のうち最も多かった。腎移植術16回がそれにつぐ回数であったが、16回のうち生体腎移植6回、死体腎移植10回であった。

2. 尿管の手術 (Table 17)

92回中、尿管膀胱新吻合術45回、回腸導管造設術9回、尿管切石術6回、尿管皮膚瘻術6回が多かった。尿管膀胱新吻合術は主にVURに対して施行された。

3. 膀胱の手術 (Table 18)

64回のうち、TUR-Bt 30回、TUR-Bn 12回、膀胱全摘除術7回が多かった。

4. 尿道の手術 (Table 19)

121回のうち、先天性および後天性尿道狭窄に対する直視下内尿道切開が73回と最も多かった。女子の遠

Table 22. 陰茎の手術.

術 名	男		計
	小児	成人	
索切除術(尿道下裂)	21	0	21
尿道形成術(尿道下裂)	27	1	28
外尿道口形成術(尿道下裂)	4	1	5
包皮背面切開術	3	0	3
陰茎腫瘍生検	0	2	2
包皮環状切除	0	2	2
陰茎白膜縫合術	0	1	1
計	55	7	62

Table 23. そのほかの手術.

術 名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
副甲状腺全摘除術	0	3	0	2	5
副腎摘除術	0	1	0	1	2
後腹膜リンパ節廓清術	0	2	0	0	2
女子外陰部形成術	0	0	1	0	1
外陰部腫瘤摘除術	0	0	1	0	1
スキーン氏腺摘除術	0	0	0	1	1
重複直腸摘除術	1	0	0	0	1
肛管ヘルニア根治術	1	0	0	0	1
計	2	6	2	4	14

位部尿道狭窄に対する外尿道口形成術が19回, 尿道弁に対する TUR が15回施行された.

5. 前立腺の手術 (Table 20)

前立腺に対する手術のほとんどは TUR-P であり, 恥骨後前立腺摘除術は1回のみであった.

6. 陰嚢・陰嚢内容の手術 (Table 21)

56回のうち睾丸固定術24回, 除睾術11回, 陰嚢水腫摘除術7回が多かった. 睾丸自家移植術1回および副睾丸精管吻合術1回をマイクロサージャリーにより施行した.

7 陰茎の手術 (Table 22)

尿道下裂に対する手術がもっとも多く, 索切除術21回, 尿道形成術28回, 外尿道口形成術5回が施行された. 陰茎折症に対して陰茎白膜縫合術が1回施行された.

8. そのほかの手術 (Table 23)

二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺全摘除術を5回, 副腎腫瘍に対する副腎摘除術を2回施行

した.

結 語

兵庫医科大学泌尿器科における1985年度の外来, 入院患者と手術に関する統計を行ない, 次の結果を得た.

1) 外来新患者数は1,795名で, 男子が1,180名, 女子が615名であった. おもな疾患は尿路性器感染症であり, それについて先天性異常, 結石, 腫瘍であった.

2) 入院患者数は528名であり, 男子400名, 女子128名であった. 小児患者が251名と約半数をしめた. おもな疾患は, 尿道下裂, VUR, 先天性尿道狭窄, 前立腺肥大症であった.

3) 延べ手術回数は518回であり, 小児泌尿器科手術が245回と47%をしめた. おもな手術は, 直視下内尿道切開, 尿道下裂修正手術, 尿管膀胱新吻合術, TUR-P, TUR-Bt であった. 本年から経皮的腎碎石術 (PNL) が開始され19回施行された.

文 献

- 1) 生駒文彦・森 義則・島田憲次・岡本新司・川口理作・木野田茂・大西洋子・仲地研吾・田口恵造・西崎伸也・藤末 洋・松井孝之・黒田治朗・鹿子木基二: 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1982年の臨床統計. 泌尿紀要 29: 1127~1132, 1983
- 2) 生駒文彦・森 義則・有馬正明・黒田治朗・島田憲次・島 博基・井原英有・鹿子木基二・岡本新司・薮元秀典・河東鈴春・大西洋子・木野田茂・西崎伸也・仲地研吾・細川尚三・荻野敏弘・松井孝之・田口恵造・藤末 洋・土井康裕: 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1983年の臨床統計. 泌尿紀要 31: 639~645, 1985
- 3) 生駒文彦・森 義則・有馬正明・黒田治朗・島田憲次・島 博基・井原英有・鹿子木基二・薮元秀典・河東鈴春・細川尚三・荻野敏弘・川口理作・仲地研吾・田口恵造・松井孝之・藤末 洋・西崎伸也・土井康裕・竹村俊哉・平田博通: 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1984年の臨床統計. 泌尿紀要 32: 1489~1495, 1986

(1986年11月13日受付)